

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅱ(春向) 応用情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	5	時間数	76	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ミニテスト(H30春～R01秋の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R01秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	R01秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	R01秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	R01秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	R01秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	R01秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	R01秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	H31春の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	H31春の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	H31春の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	H31春の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	H31春の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	H31春の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	H31春の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	H30秋の午後問題の間1,5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	25	H30秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	26	H30秋の午後問題の間4,7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	

	27	H30秋の午後問題の問6を解き、解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	28	模擬試験を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	29	模擬試験を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	30	模擬試験を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	31	模擬試験を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	32	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	33	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	34	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	35	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	36	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	37	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	38	H30春の午後問題の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
	評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験(国家試験)		◎	◎				80%	
模擬試験とミニテスト		◎	◎				20%	
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅱ(春向) 基本情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	5	時間数	76	担当者	中西伸二、堀伸二、山本隆行、毛利俊司	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1				
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	7	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	8	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	9	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	10	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	11	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	12	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	13	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	16	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	17	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	18	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	19	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	20	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	21	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	22	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	23	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-3 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	24	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-4 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	25	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	26	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	

	27	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-2	H30年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-3	H29年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	31	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	32	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	33	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	34	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	35	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	36	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	37	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-3 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	38	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-4 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験は、基本情報本試験とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅱ(秋向) 応用情報技術者試験						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	國房 篤子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科2年						
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	R02春の午前問題を解き、解説-1				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R02春の午前問題を解き、解説-2				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	3	R02春の午前問題を解き、解説-3				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	4	R02春の午前問題を解き、解説-4				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	5	R02春の午前問題を解き、解説-5				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	6	R01秋の午前問題を解き、解説-1				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	7	R01秋の午前問題を解き、解説-2				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	8	R01秋の午前問題を解き、解説-3				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	9	R01秋の午前問題を解き、解説-4				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	10	R01秋の午前問題を解き、解説-5				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	11	H31春の午前問題を解き、解説-1				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	12	H31春の午前問題を解き、解説-2				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	13	H31春の午前問題を解き、解説-3				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	14	H31春の午前問題を解き、解説-4				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	15	H31春の午前問題を解き、解説-5				授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	ミニテスト	◎	◎				40%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅱ(秋向) 基本情報技術者試験						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	新納 美佳、中西 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科2年						
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。	
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1					
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	7	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	8	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	9	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	10	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	11	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	12	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	13	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	※授業内容は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅱ(秋向) 情報安全確保支援士試験						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	山田貴文		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科2年						
授業概要	情報セキュリティを深く理解することを目的として、攻撃手法を学び、実機を使って攻撃実験を行う。情報セキュリティに関する現状を知り、セキュリティを確保するための様々な活動を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				攻撃手法についての知識を付ける	
		○		○		攻撃実験を行うことで実際のセキュリティ感覚を身に付ける	
	○	○				情報セキュリティの安全確保の知識を付ける	
テキスト・教材 参考図書	Web情報を参考にする。 ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	情報セキュリティの現状について				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	2	情報処理安全確保支援士基礎知識1				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	3	情報処理安全確保支援士基礎知識2				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	4	仮想環境の構築、設定				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	5	ホストOS、ゲストOSの基本				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	6	Windowsのハッキングについて				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	7	Windowsのハッキング体験				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	8	Linuxのハッキングについて				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	9	Linuxのハッキング体験				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	10	LANのハッキングについて				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	11	LANのハッキング体験				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	12	Webアプリのハッキングについて				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	13	Webアプリのハッキング体験				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	14	ログオン認証のハッキングについて				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	15	ログオン認証のハッキング体験				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	定期試験は、攻撃手法の知識、安全確保の知識を身に付けたかどうかで、評価を行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎		○		20%
	定期試験	○	◎				80%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	データベース演習						
科目名(英)	Database practice						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	谷口 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	OAインストラクタとしてセミナーを担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	Accessのデータ作成やフォーム作成などの操作方法を学ぶ それを応用したデータ活用が出来るようになる						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				Accessのデータ作成やフォーム作成などの操作方法を学ぶ	
		○				データ活用が出来るようになる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ACCESS 選択クエリ				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	2	選択クエリ(演算フィールド/パラメータクエリ)				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	3	アクションクエリについて(レポート作成)①				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	4	アクションクエリについて(レポート作成)②				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	5	アクションクエリ				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	6	データの編集・インポート				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	7	アクションクエリテスト				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
	8	教科確認テスト				課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事	
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)毎回授業で扱うプリントや作文を提出し、添削後、評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎					50%
	宿題・レポート	◎			○		50%
	発表・作品						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	実務文書作成						
科目名(英)	Working document creation						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	谷口 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	OAインストラクタとしてセミナーを担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	Officeを活用し、ビジネス文書、企画書、発表資料などのドキュメント作成を出来るように指導する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ビジネスに対応するドキュメント作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Word 用紙サイズ等書式設定 ビジネス文書(社内文書)①			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	2	Word 用紙サイズ等書式設定 ビジネス文書(社内文書)②			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	3	Word 用紙サイズ等書式設定 ビジネス文書(社内文書)③			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	4	Word 目次、スタイルの設定			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	5	Word 文書作成 演習			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	6	Excel スケジュール表			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	7	PowerPoint 発表資料作成①			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	8	PowerPoint 発表資料作成②			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)毎回授業で扱うプリントや作文を提出し、添削後、評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎			○		100%
	発表・作品						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	Oracle SQL II						
科目名(英)	Oracle SQL II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科2年						
授業概要	Oracle Databaseは、メインフレームからパーソナルコンピュータまで幅広いプラットフォームをサポートしているデータベースである。IT業務においてもSQLの知識は必須とされ、中でもOracleに特化したSQL文法は業務において頻出である。本講義においては、OracleSQL Iに引き続きOracleSQLにおけるデータベース操作を学習するとともに、表の作成や制約、その他のスキーマ・オブジェクトの作成方法やオブジェクトの管理方法などの習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					データベースの操作において、表へのデータの追加・削除更新を行うことができる。	
	○					データ型や制約を理解し、表を作成および変更することができる。	
	○					データベース・オブジェクトを作成、使用することができる。	
	○					Oracle結合構文を理解し、様々な結合を行うことができる。	
○					SQL*Plusのコマンドを活用し、オペレーションできる。		
テキスト・教材 参考図書	Oracle Database 10g 入門 SQL基礎 I						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	データベースの操作 - 表への新しい行の追加			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	データベースの操作 - 表の行の更新			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	データベースの操作 - 表からの行の削除			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	データベースの操作 - データベース・トランザクション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	DDL文を使用した表の作成と管理 - 表の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	DDL文を使用した表の作成と管理 - 制約			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	DDL文を使用した表の作成と管理 - ALTER TABLE文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	他のスキーマ・オブジェクトの作成 - ビュー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	他のスキーマ・オブジェクトの作成 - ビューでのDML操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	他のスキーマ・オブジェクトの作成 - 順序			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	他のスキーマ・オブジェクトの作成 - 索引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	他のスキーマ・オブジェクトの作成 - シノニム			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	データ・ディクショナリ・ビューによるオブジェクトの管理 - データ・ディクショナリ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	Oracle結合構文 - 表の結合			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	SQL*Plusの使用法 - SQL*Plusコマンド			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Visual C# I					
科目名(英)	Visual C# I					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	現在ではMac OS、スマートフォンのiPhone(iOS)やAndroidアプリ、Webアプリケーションの開発もできるようになり、汎用性の高い高級言語となったC#であるが、今回の授業では全く.NET Frameworkでの開発の経験がない学生を対象にWindowsアプリケーション開発のを目的とする。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					C#の処理、文法について理解する
		○				コントロールを利用してWindowsフォームアプリケーションを作成する
		○				クラスを利用して構造化したプログラムを作成する
テキスト・教材 参考図書	SB クリエイティブ やさしいC# 第2版					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	C#の開発のやりかた、環境設定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	プログラムの作成と実行			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	コンソールに出力する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	フォーム作成の基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	文字列の表示と操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	C#に置ける変数型と演算子			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	条件分岐			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	配列			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	繰り返し処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	クラスの設計			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	アクセスの制限			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	静的メンバ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	継承の仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	抽象クラスとインターフェイス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	イベント処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	いろいろなイベント処理の実装			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	コントロールの利用①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	コントロールの利用②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	コントロールの利用③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	コントロールの利用④			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	グラフィックの基本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	グラフィックの応用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	タイマーの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	ファイル操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	テキストファイルの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	26	【演習】まとめ課題			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事	

	27	【演習】まとめ課題	課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事				
	28	【演習】まとめ課題	課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事				
	29	【演習】まとめ課題	課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事				
	30	【演習】まとめ課題	課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事				
評価方法	(1)授業の中で演習課題を4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(演習)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webデザイン基礎					
科目名(英)	Web Foundation					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	毛利 俊司	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	現在では、商品の広告媒体としてPC、スマートデバイスで閲覧できるWebサイトが多く採用されている。年々、その比率も上昇の傾向にありWeb開発の出来る技術者の育成は急務と言える。 今回の授業ではWeb政策に必要なHTML、CSS等の文法な知識や表現技術を習得することを目的とする。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					Webページがブラウザ上に表示されるまでの仕組みを知る
		○				HTMLを使用してWebページの構造を考えて製作することが出来る
		○				CSSを使用してWebページ全体の配色やバランス等のデザイン調整が出来る
		○				HTMLとCSSを組み合わせる標準的な静的Webページを作成する
テキスト・教材 参考図書	SB クリエイティブ 演習で力がつくHTML/CSS コーディングの教科書					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	最も簡単なWebページを作る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	文章をセクションに分けて記述する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	HTML文書の本構造を理解する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	画像・ハイパーリンクを使用する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	動画と音声を使用する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	【演習】自己紹介ページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	7	【演習】自己紹介ページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	8	【演習】自己紹介ページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	9	CSSの書き方の基本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	スタイルの適用方法とセレクタについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	ボックス設定の基本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	ボックス利用の応用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	floatによる回り込みの設定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	【演習】仮想店舗のコンテンツページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	15	【演習】仮想店舗のコンテンツページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	16	【演習】仮想店舗のコンテンツページの作成			演習の不足分は授業外で進めておく事	
	17	2段組のページの作成の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	トップページの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	メニューの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	2段組の段組のレイアウトにする			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	ifameの利用と画面の切り替え			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	テーブルの作成の基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	テーブルのスタイル設定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	フォームの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	フォームで利用できるコントロール その1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
26	フォームで利用できるコントロール その2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		

	27	【演習】ニュース・ブログ風のコンテンツページの作成	演習の不足分は授業外で進めておく事				
	28	【演習】ニュース・ブログ風のコンテンツページの作成	演習の不足分は授業外で進めておく事				
	29	【演習】ビジネス風のコンテンツページの作成	演習の不足分は授業外で進めておく事				
	30	【演習】ビジネス風のコンテンツページの作成	演習の不足分は授業外で進めておく事				
評価方法	(1)授業の中で演習課題を4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(演習)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Javaプログラミング					
科目名(英)	java programming					
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	ソフトウェアの大規模化に伴い、より効率的な開発手法としてオブジェクト指向プログラミングが確立した。Javaはそのオブジェクト指向によるソフトウェア開発を可能とする仕様を有するプログラミング言語である。この授業を通して、オブジェクト指向の知識やその実装方法の習得を目指す。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					プログラミング開発環境の設定・オペレーションができる。
	○					オブジェクト指向を理解し、オブジェクト指向プログラミングを行うことができる。
	○					例外を理解し、それを制御できる。
	○					標準クラスライブラリの使用方法を習得し活用できる。
テキスト・教材 参考図書	2週間で Java SE Bronze の基礎が学べる本 (インプレス社)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	開発環境の確認 - Javaプログラミングの開発環境の操作方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	オブジェクト指向 - オブジェクト指向プログラミングの基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	インスタンスの扱い方 - クラスとインスタンス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	プログラム作成演習 - プログラムの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	オブジェクト型配列 - プリミティブ型配列との違い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	パッケージ - パッケージによるクラスの種類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	クラスの継承 - クラスの継承とは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	クラスの継承 - 差分プログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	クラスの継承 - オーバーライド			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	クラスの継承 - 継承とコンストラクタメソッド			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	例外処理 - 例外処理とは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	例外処理 - 例外の実装			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	ポリモーフィズム - ポリモーフィズムとは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	ポリモーフィズム - ポリモーフィズムの実装			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	ポリモーフィズム - アップキャストとダウンキャスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	抽象化プログラミング - インタフェース			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	抽象化プログラミング - 抽象クラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	コレクション - コレクションとは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	コレクション - 実現クラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	コレクション - ラッパークラスとオートボクシング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	標準クラスライブラリ - Stringクラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	標準クラスライブラリ - 日付と時間を扱うクラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
23	標準クラスライブラリ - ファイルの入出力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)	General educationⅡA						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	堀 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	就職試験における筆記の重要性は増しており、またその内容もSPI・CAB・GABなどといった様々な種類に分かれています。よって、この授業では、演習を通して多くの問題に触れることにより、就職試験の際、柔軟な対応ができるような知識や思考力を身につけることを目的とします。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職試験での筆記における頻出問題に対応できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	試験によく出る一般常識問題集 学校から配布される就職試験対策の問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・確認テスト			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	2	・SPI基本			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	3	・CAB・GAB基本			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	4	・SPI基本①			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	5	・SPI基本②			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	6	・SPI基本③			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	7	・模擬テスト			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	8	・模擬テスト解説			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、定期試験は受験できないものとする。						

科目名	GCB II					
科目名(英)	Global Citizen Basic II					
単位数	1	時間数	16	担当者	新納 美佳	
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	一人ひとりの学生が、一度の人生を無駄にせず、価値あるものにする事で、自分の人生を豊かにしていくための講座となる。多くの成功者は、「人生は思い描いて、そのビジョンに向けて行動し続ける事で実現となる」と伝えている。成長するためには、強い思いを抱いて行動する事、すなわち志を立てることが大切である。そして、志が立てば、働く意味や学ぶ意味も自分で考えるようになり、就職動機やキャリアビジョンを自分の言葉で表現できるようになる。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		考える事の大切さを知る。
				○		自分の言葉で伝える大切さを知る。
				○		目標の大切さ、志の大切さを知る。
				○		行動する大切さに気づく。
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII 志の教育					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志			テキストを読んでおく事	
	2	何故志を立てることが大切なのか			テキストを読んでおく事	
	3	自己を知る			テキストを読んでおく事	
	4	伝える力を学ぶ-プレゼンテーションのコツ-			テキストを読んでおく事	
	5	伝える力を学ぶ-グループディスカッション-			テキストを読んでおく事	
	6	先人の志に学ぶ			テキストを読んでおく事	
	7	成功者の考え方に学ぶ			テキストを読んでおく事	
	8	GCB IIを受講して、私が感じた事・気づいた事・学んだ事			テキストを読んでおく事	
評価方法	この講座では、点数による評価は行わない。 成績評価基準は、R評価のみとする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
						評価割合
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。					